

KAROism

カロイズム



←800車種近くの型紙を製作しつつ、なお「まだまだ100%には届かない。これからは機能美を追求し続けます」と元木サン。株式会社カロ(☎03-3374-1955)

室内の雰囲気を変えたいと思ったら、足元に目を向けてみよう。最大の面積を占めるものがそこにある

敷き詰める面積の広さが室内を変える

シザルと名付けられたザラツとした独特の肌触りと鮮やかなチェッカー柄のマットで知られる、クルマ用フロアマットの代表的存在カロイズム。カロマットと我々が呼び親しんでいるあのマットは、何がどう優れているのだろうか。

「マットというのはゴミやホコリが床に落ちるのを防ぐ、ただそれだけではありません。車内の大きな面積を占めているマットを変えればインテリアの雰囲気が変わる。汎用のものは数多くあるんですけど、ここまでの面積をカバーする車種別に専用で設計されているものはまだ少ない。汎用品には、これだけイメージを変えられるものはないと思います」

クルマが世の中に増えるたびに対応車種を増やしていったカロイズム。その製作に使われる型紙は、当時のものから最新の車種にいたるまで、すべて品番別に整理され保管され、現在ではなんと1550を超えている。今回お話を伺った元木サンは、そのうちの700〜800車種の型紙を採寸したという超ベテランだ。

そもそも、シザル麻を使ったフロアマットが登場したのは、今から約20年前。欧州から輸入されたボルシエに備えられていた外国製品だった。その頃日本車にはまだ、社外品のフロアマッ

トというものはほとんど無いと言っていい状態だったという。そこでカロが、国産車向けのマットを作り始めた。

「天然素材のシザル麻は、自然の中で育った繊維なので非常に強いんです。耐久性があつて、ちよつとやそつと使ったくらいじゃ痛まない。これの染色は難しいんですけど、何とか技術開発してきれいな色を出せるようになった。また、日光や温度湿度によつても変色変形しないよう、普通の一般に売られている糸とは技術的にも違っています。魅力は、はつきりとした鮮やかな色合いですね。また、使い込むことでジーンズのように自分の味をつくり出せるところも、天然素材ならではの。

現在ではこのシザルの他に、天然ワールの質感と耐久性を両立させた特殊化学繊維を使った4種類、計5タイプが用意されている。

汎用品ではありえない特注による細かな対応

ノーマルとは足元の状態の違うこともあるVIPカーにおいて、特注による製作が、比較的手の出しやすい価格で実現出来ることも特徴だ。

「原寸大で型紙を用意していただければ、型紙がない車種でもそのとおりにお作りします。変わったところではヨットの船室とかセサナの操縦席というオーダーも過去には入ったことがありますし、玄関に敷いたり乗り物以外の

ものにも使っていました」

つまり、型紙さえ用意すればリヤトレイでもトランク用のものでも、たとえば、後席用の左右に別れているものを一体にすることも可能。人とは違うものを求めて自分だけのマットを製作してもらえるのだ。

機能と美しさの両立、それが「機能美」

「こだわっているのは、いかに床の面積にたいして敷き詰められるか、という部分です。ただ面積が広いだけではなく、クルマの床というのは立体的なんです。その盛り上がり具合によつては、運転席から座って見たときに真

つすく見えるよう、現車に合わせて型紙を調整していくこともあります」

天然ワールのようなしなやかな肌ざわりと耐久性を両立させた特殊化学繊維、汚れ・カビに強い表面加工、滑りと防止とマット保護のフットプレート、マットを強化すると同時にズレを防ぐラバーフォーム・パッキング、反りを抑えるトリムテープ、より安全性を高めるストッパーホール…。

そうしたカタログに書いてあるスペックだけでは決して計り知れないカロイズムの魅力は、職人の手作業によるていねいな採寸と型紙作り、そしてあくなき機能美の追求から生まれて来るに違いない。

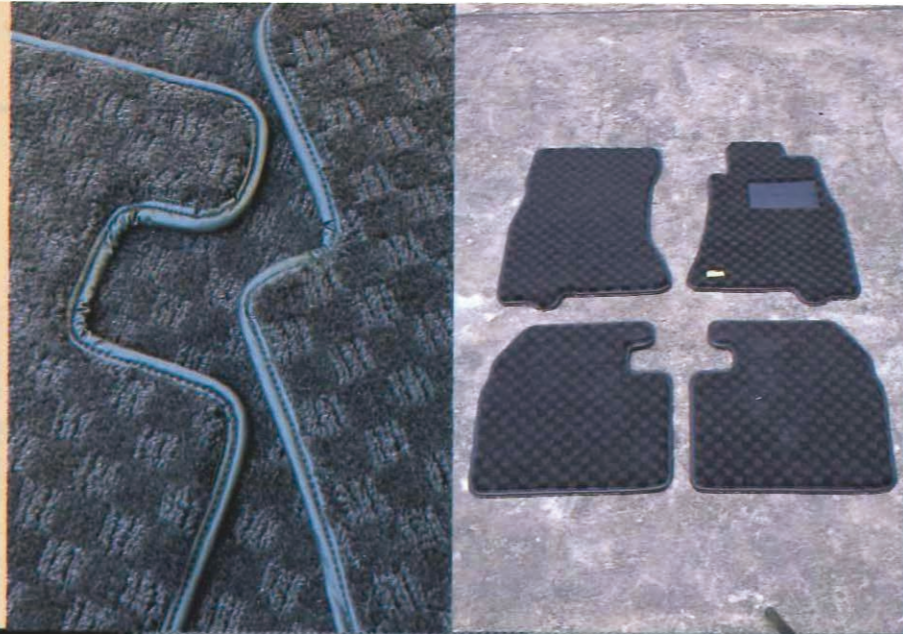
どこまで隙間なく敷き詰められるのか、どのくらい室内の雰囲気を換えられるか、どれだけオーナーの希望に応えられるのか

室内は素材と質感

ループ織りとカットを組み合わせたチェック柄の「クレスト」(写真右上)。カット部分は一度表面に引き出した糸の束を一緒に刈りつろえ自然な風合いを残しつつ、びしゃっとそろった気持ち良さを出した。踏みむのがもったいなくなるような圧倒的な厚みとボリューム感。ベンツやセルシオのオーナーからのオーダーが多いという最高級品。

しかし、だからといってそれ以外のものが廉価版ではない。それ以外のラインナップ(中央右の4点、右上から時計回りに)、上品でシンプルな織り柄から、純正室内の雰囲気とマッチする「クローネ」。ループ織りによる微妙なグラデーションがついたチェック柄の「フラクシー」。天然麻による鮮やかな色合いと独特の光沢、そしてさわやかな感触の「シザル」。そして、他のものよりもチェックの柄が大きく、光の角度によって微妙に変化しさまざまな表情を見せる大人っぽい「ウーリー」。

それぞれが特徴と長所をもつ5種類の柄は、値段の安い高いよりもオーナーの好みによって、最高のものが変わってくる。



→ 摩擦や汚れからマットを守るゴム製プレート表面にはチエッカー風のパターンをモノドし機能性と見栄えを両立

マットのもととなる生地は、横幅約120センチのロール状(トイレットペーパーを想像してもらいたい)。つまり、一辺の長さがそれ以下のものなら、理論的には長さは10メートルでも20メートルのものでも特注可能だ。作られた型紙はコンピューターに入力され、マシンが生地を型紙どおり正確に切断していく。「コンピューターを使うのは、精度が高いから。やはり切った断面が違います。人間の手ではどうしても出てしまう歪みがない。直線は本当に直線。アールの部分も歪まずに切れる」。仕上がりは、トリムテープで覆ってしまうのだが、それでも違いはあるという。

「一番分かりやすいのはシザルなんですけど、切り方が悪いと触ったときギザギザしているのが絶対わかる」。職人技と最新技術の融合により、カロイズムは作られている。なお、マットは単品での注文も受け付けてくれる。「ポロポロになるまで使い込んだ方から、運転席だけ作って欲しいというオーダーを受けたことがあります。そういった単品でのオーダーは、たとえばゴムのプレートだけでも可能です。メンテナンスに関しても出来る限り最大限のことをしていきたいと考えておりますので、長い間使っていたらと思えます」と元木サン。使い捨ての商品がふれる現代に、その気持ちが嬉しい。日頃の手入れは、裏返しにしてホコリをはたき、ゴミは掃除機で。シザルの場合、科学薬品はなるべく使わず、固くしぼったタオルで拭くのがよいという。それでも汚れが落ちなかった時は、お客様相談室に電話してみよう。最適な手入れの方法を教えてください。